

アスクネットと市民講師参加の「ソクラテスミーティング」(4月28日「探究基礎」)
生徒もゲストも担当の先生も、真剣＆楽しい！



「高校ランチ革命 Mother Kitchen」理事の石山大雅さん。障がい者とともに弁当を作り、食堂がない高校に販売しています。生徒の「年収は？」の質問には答えず、「ありがたい言葉をもらった時が一番嬉しい。」逆に「高い年収の仕事がいいの？」と生徒に質問。「おれは、やっぱりやりがいかな。」と答える1年生でした。

もう一人のゲストは弥富建設代表取締役の犬飼将清さん。犬飼さんは本校のインターンシップを引き受けていただいています。生徒の自宅からの通学方法を聞きながら弥富市の地域や施設の話もされていました。「仕事はつらいですか？」との問いに、「仕事はみんなつらいもの。」と答えましたが、アスクネットの方からは「その裏もあるよね。」と生徒に次の質問へのヒントをだされました。



この日は市民講師2名、アスクネット2名、担当の杉浦、福手両先生の計6名が「大人」として参加。グループ毎に15分交代で生徒からの質問に答えます。とてもなごやかな、楽しい時間でした。これが＜探究の楽しさを体験しながら学び方を学ぶ＞「探究基礎」の授業なんですね。

トピック：学力競争に振り回される教育現場

3月の卒業式の翌日から東京で開かれた「地域民主教育全国交流研究会」(略称「交流研」)の世話人会議に出席してきました。各県からいろいろな報告が出されましたが、その中で特に印象に残った話題を紹介します。(遅くなって申し訳ありません。) **裏面に続く**

「全国学力・学習調査」の結果が発表された昨年9月、北海道の美容院での世間話です。

母：「うちのころと違って、夏休みの宿題、多くってさ…。大変だった…。うちの子、泣きながらやってたっさ…。

店主：「あの先生、ハードだから、毎日の宿題も、プリント、3～4枚あるっけさ。う

ちなんか、帰ってきてすぐやっても、なかなかおわんねえっさ。

母：でも、（宿題が）ないと、DSばかりやってるし…。宿題出してくれると、助かるっさ…。全国学テも、北海道、何だか問題ってというのが、最下位みたいだし…。」

店主：「親悪いんだべか…。」（笑）

店主母：「秋田が高いみたいだね。なんか、北海道低くて恥ずかしいっけ…。」

この会話を聞いていた先生は、①忙しく、大変な子どもを少しかわいそうと思っている、②それでも宿題でしか勉強をしないので、宿題はいいと思っている、③そしてやはり「学テをランキングで見ている」ということを感じたそうです。

「全国学力・学習状況調査」は、状況を調査して次に生かすためのもの、のはずです。しかしランキングが報道され、地域によっては学校のランキングまで公表すべきという動きまであるように、競争的環境に学力テストの結果をおいて子どもや教師、保護者、学校を競わせることになってきています。

北海道教育委員会が保護者用に出したプリントには全国、北海道、秋田の結果がグラフで示され、以下のようなコメントが書かれています。

テストの点数だけで人の価値なんて決まらない。

でも、くやしいじゃないか！

そろそろ見せてやろう！

どさんこ
道産子の本気を！！

確かな学力を子どもたちにつけることは保護者の願いであるし、教師の願いでもあります。この仕事の中心的な担い手は教師であることは確かです。しかし、今、全国の学校では「平均」を上回るための競争が行政（教育委員会だけでなく、議会や首長）によって厳しく進められています。M県でも「平均」以下の学校の校長は教育事務所から呼び出されて「指導」を受けているそうです。「平均」は「平均」だからどんなに頑張っても「平均」以下の学校は必ずでるものですね。

あるお母さんから小学生の息子に関して相談が寄せられました。

母：「うちの子、最近、トイレと風呂が、やたら長いっさ…」

私：「いいでしょ、それぐらい…」

母：「ハンパないよ…！しかも、大音量で歌うっさ…」

私：「どんな歌？」

母：「ドラえもんのさ、ほら、『おれはジャイアン』って歌。しかも、自作の歌詞つけてるっさ…」

私：「どんな歌詞つけてるの？」

母：「なんかね、♪なんでおればっかり♪怒られるんだ～♪腹立つ♪」

「…なんか、もういっぱいいっぱいになってる感じがするっさ。うちの子、いつも、居残りなんだ…。少年団もあって、勉強もすごい時間がかかるっさ…」（後略）

北海道だけでなく、多くの県から「学力向上」対策で教育現場が四苦八苦し、子どもが追い詰められている状況や、教師が疲れている様子が報告されました。特に、1回10分1日3回の確認テストで休み時間が削られて遊ぶ時間が減り子どものストレスがたまっている様子、職員が疑義を出しても「上からの指示」を理由に強行する校長といった事例は、何のための「学力向上」活動か疑問を感じずにはいられませんでした。11月22～24日に青森で開催される研究集会では、昨年の福島集会で行われた被災地調査を受け継ぎ、青森の原発、核燃料再処理施設などの調査を含めてこうした問題を青森の地で考えることになります。この頃はオータムフェスで忙しい時期ですが、参加を御検討ください。（私は往路はフェリーで行くつもりです。）